2026 年投稿・2027 年発行

# 『保育学研究』第 65 巻の特集論文
# テーマ：保育と園組織

なぜ、保育と園組織を問うのか。近年、多くの保育に関わる書籍・論文・行政資料では、「保育の質の向上」が当然のように使用されている。保育の質を向上させていくためには、個々の保育者だけではなく、園全体の組織的な取り組みが求められるだろう。例えば、幼稚園教育要領解説には、園長がリーダーシップを発揮し、一人一人の教師が教育活動取り組めるよう「幼稚園づくり」を行い、「教師同士が各々の違いを尊重しながら協力し合える開かれた関係を作り出していくこと」が明記されている。

実際、2000 年頃より、園長やミドルリーダーのリーダーシップの在り方に関する研究が進められ、保育を変えていくためのより効果的な園内研修や組織づくりに関する研究が積み重ねられつつある。

だが、一方で、2015 年の子ども子育て支援制度の実施によって、幼保連携型認定こども園や小規模保育といった就学前施設の多様化が進んできており、それぞれの施設が抱える課題も一様ではない。さらには、数年来の不適切保育への着目やそれに伴う保育者不足等、就学前施設を取り巻く状況に対して様々な対応を迫られている。各就学前施設が地域・施設の実情に応じて、組織全体として工夫し乗り越えていくことが求められている。

子どものために、保育の質を向上させることは多くの園組織関係者の願いであろう。そこで特集として、保育と園組織をテーマとして取り上げた。

本テーマの射程は広い。就学前施設における職員の同僚性や、分散・共有型リーダーシップといった人間関係に注目したものや、園内外研修と保育とがどのように結びつているのか、あるいはそこでの保育者の学びは何か、また、カリキュラム・マネジメントなど、園運営に関わることに対する組織的な取り組みに関する研究など、多岐にわたることが想定される。よりよい保育へ向かっていくための「保育と園組織」に関わる論稿を期待したい。

（文責　上田　敏丈）